北海道教育大学　へき地・小規模校教育研究センター（通称：へき研センター）
HUE RISE Hokkaido University of Education Research Institute for Remote and Small School Education（aka HUERISE）
令和５年6月１３日発行　第１２7号

へきけんニュース

ホームページ　https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス　kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291　FAX 0154-44-3292

背景は北海道教育大学釧路校

令和5年度へき地･小規模校教育研究センター研究費助成の公募･「へき地･小規模校教育研究計画」を募集しています！

北海道教育大学へき地･小規模校教育研究センター

へき地・小規模校教育研究センターでは、へき地教育研究・教育活動を発展させ、全体的な成果を蓄積していくために、下記のとおりグループおよび個人で進める研究・教育活動の研究費助成の公募を行います。

本年度は、計画書提出締め切りを６月30日（金）正午とし、助成に伴う次年度の『へき地教育研究』への投稿題目締め切りを令和６年６月末日、原稿締切を令和６年８月末日とします。提出先はへき研センター事務室です。

へき地・小規模校教育研究は、極めて幅広く教科教育・総合的な学習・学級経営・生徒指導・学校運営・地域連携・特別支援教育・へき地教育政策など多岐にわたっています。また理論も実践も往還しながら研究が蓄積されています。このように、あらゆる観点からへき地・小規模校教育研究が取り組まれています。今後ともへき地・小規模校教育研究の裾野を広げたいと思いますので、これらに関係する研究を進めたいと思われる方はぜひ積極的な申請をお願いします。

研究費助成を受けた方は、次年度の紀要『へき地教育研究』への投稿が義務となりますが、『へき地教育研究』はすでに77号を刊行し、多様な研究成果が蓄積されて国内外から注目されています。ぜひ多くの皆様に積極的にエントリーしていただきたいと思います。

令和５年度は，下記のような方法で募集します。

(1)研究計画の申請

＊研究課題は、へき地教育を前提にして３つの領域に属するものとします。

＊研究計画書の請求は、へき研センター事務室（kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp）までメールでお問い合わせください。

＊研究計画書には、研究目的・内容を具体的に記入してください。

また「へき地・小規模校教育の発展に資する本研究の意義」を明記してください。本研究の目的は、へき地・小規模校教育の研究・教育の発展に資することを目的にしています。

＊経費の項目は「備品・消耗品・旅費・その他」です。

＊申請額の上限は10万円、採択件数が多い場合には１件あたり減額される場合があります。

＊研究計画書（１部）は、**６月30日（金）正午まで**にへき研センター事務室に提出もしくはメール（kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp）送信してください。

＊研究費助成を受けた方でまだ『へき地教育研究』に投稿できていない方は、応募することができません。

(2)研究計画の採否

＊７月中旬を目処に決定します。

(3)研究成果について

＊研究成果は、次年度の紀要『へき地教育研究』第79号に投稿することになります。原稿の締め切りは、**令和６年８月末日**です。

＊なお、可能な限り当センターが主催する“へき地教育推進フォーラム”にご参加いただきたいと思います。また成果普及を目的として、“へき地教育推進フォーラム”で話題提供していただくことがあります。

(4)研究計画の申請にあたって

研究計画の申請にあたり、投稿原稿はへき地・小規模校教育に係る研究論文（学術論文としての体裁を有するもの）、研究ノート（実践報告を含む）、その他研究活動に関するものとします。

研究論文、研究ノートは、次の３つの領域に属するものとし、①②③の各領域の関連については例示を参考にしてください。

①へき地・小規模校教育に関する基礎的・理論的研究
②へき地・小規模校教育に関する実践研究（実践報告を含む）
③へき地・小規模校教育に関わる地域教育研究

≪テーマの例示≫

◇学習指導･複式指導･少人数学級経営･生徒指導に関する領域

- ･へき地･小規模校の少人数指導･複式学習指導
- ･へき地･小規模校の教科教育内容
- ･へき地･小規模校の総合的な学習･地域探究学習
- ･へき地･小規模校の社会性を伸ばす学級経営
- ･へき地･小規模校の生徒指導
- ･へき地･小規模校の特別支援教育
- ･へき地･小規模校のICTを活かした教育活動

◇学校運営･地域連携に関する領域

- ･へき地･小規模校の学校運営
- ･へき地･小規模校の学校-地域連携活動
- ･へき地･小規模校の教員研修
- ･へき地･小規模校のカリキュラムマネジメント

◇特別活動に関する領域

- ･へき地･小規模校の特色ある教育活動
- ･へき地･小規模校の行事運営

◇その他(へき地･小規模校教育関連分野で編集委員会が認めたもの)

教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業
「全国的な過疎化・小規模校化の課題に対応した『へき地教育プログラム』の開発
-へき地・離島を多く抱える北海道教育大学・長崎大学・鹿児島大学・琉球大学の連携による先行実践プログラムの開発の開発- が採択されました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

過日、へき地・小規模校教育研究センターで申請した「教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「全国的な過疎化・小規模校化の課題に対応した『へき地教育プログラム』の開発-へき地・離島を多く抱える北海道教育大学・長崎大学・鹿児島大学・琉球大学の連携による先行実践プログラムの開発の開発-」が採択されました。

この事業を推進するために、へき地・小規模校教育研究センターとして、教員養成モデルや教員研修プログラムを開発し、全国の大学に普及・発信していきたいと考えています。

審査委員会意見は以下のとおりです。

○オンデマンド研修の機能強化に向けた具体性に富んだ計画であり、実現性・妥当性に優れていると評価できる。

○研修前・研修中・研修後・研修評価の体系的な研修全体構造を開発する点は、緻密に研修機能を評価する上で極めて重要な概念である。

○教委及び教育研究所との連携に基づいた調査研究を進めている。特に北海道教育委員会等との継続的な連携による研修ファシリテーションは評価できる。

○適正な経費設定・計画になっていると評価できる。

○実施計画を実現するための適切な事業実施・業務管理体制になっていると評価できる。

○自己診断レーダーチャートの活用と校長のファシリテーション力の指導資料は活用が期待できる。

○オンデマンドコンテンツ作成による研修の前・中・後・評価の体系的な研修全体構造や、校長の対話に基づく研修ファシリテーション力の構造と作成資料の開発は、興味深く意義を感じる。

○本調査研究の趣旨である教師の資質能力の確認及び研修成果の評価とオンデマンド研修の開発の関係が弱い。

○確実な効果が期待できる反面、研修を開発することが目的となっているように感じ、本事業の成果をオンデマンド研修以外の教員研修にも活用できるのか、という疑問が残る。

○「どのような学校においても汎用的に活用できるモデル」とあるが、本調査研究の趣旨である管理職等が教師の資質能力や研修成果を確認・評価するためのモデルとの関連についての言及があればよいと感じた。

○成果目標や具体的な内容・取組方法、実施計画においても、主にオンデマンド研修モデルの作成・試行等について記載されていた。上記同様の内容の記載があるとよいと思った。

○自己診断レーダーチャートやEQなどについて、教師の資質・能力を的確に確認する仕組みとして活用できるように一層取り組むことが望ましい。

教師の養成･採用･研修の一体的改革推進事業

全国的な過疎化・小規模校化の課題に対応した「へき地教育プログラム」の開発
－へき地・離島を多く抱える北海道教育大学・長崎大学・鹿児島大学・琉球大学の連携による先行実践プログラムの開発の開発－

目的・概要等

全国的な過疎化・小規模校化の中で、へき地教育の特性を活かした新しい教育活動を担い、へき地校の核となる人材を養成するためには、教員養成段階でへき地・小規模校教育の専門知識と実践を教授できる「へき地教育プログラム」の導入が必須である。北海道教育大学は、へき地・離島が多い他大学と連携して新たな「へき地教育プログラム」の開発を推進しており、これを基に汎用的モデルを開発し、全国の大学教育学部に普及する。

実施方法等

① **【北海道教育大学教員養成３キャンパスで展開している「へき地教育プログラム」の検証】**
　学生の評価を取り入れた多面的なプログラム評価等
② **【全国で「へき地・小規模校教育」に取り組んでいる教員養成大学等の実践の調査】**
　へき地・小規模校教育に取り組んでいる大学の調査及び比較検証等
③ **【広域へき地・山間へき地・離島へき地の「へき地教育実践」に対応する資質能力の調査】**
　へき地校で求められる資質能力の意向を調査及び学校現場で求められる教員の資質の明確化等
④ **【開放制の教職課程等での試行】**
　新たに策定した「へき地教育プログラム」（教員養成モデル）の試行と検証等
⑤ **【全国市町村に対する「へき地教育プログラム」のニーズ調査】**
　「へき地教育プログラム」に対するニーズ調査等
⑥ **【北海道教育委員会等の教員採用試験に対する地域定着枠設定等の提言】**
　教員採用試験における措置及び地域定着枠（仮称）設置の方向性についての検討等
⑦ **【へき地教育の基本テキストの刊行】**
　「令和の日本型学校教育」に適応した新しいテキストを編集・刊行等
⑧ **【「へき地教育プログラム」の研究成果の普及】**
　調査報告書の作成・配布・ホームページへの掲載等

成果目標等

a　**【北海道教育大学「へき地教育プログラム」の教訓化】**
　北海道教育大学教員養成課程（札幌校、旭川校、釧路校）における成果と教訓の明確化
b　**【「へき地教育プログラム」の開放制の教職課程等での試行導入】**
　開放制の教職課程等における試行及び他機関へのプログラムの普及
c　**【長崎大学・鹿児島大学・琉球大学の連携によるステージ別の「へき地教育プログラム」の開発】**
　広域へき地、離島へき地それぞれの「へき地教育実践」に対応できる教員養成モデルを構築
d　**【「へき地教育プログラム」に関する日本教育大学協会の意見集約と普及】**
　新たに構築した教員養成モデルを日本教育大学協会加盟の全国の大学に普及・評価・意見集約
e　**【「へき地教育プログラム」に関する全国へき地教育研究連盟の意見集約と普及】**
　各都道府県のへき地校の人材確保・人材養成の可能性について意見集約
f　**【「へき地教育プログラム」の教職志望率向上に与える影響の検証】**
　教職志望率向上に与える影響及び教員の資質・能力の育成に与える影響の検証
g　**【教員採用地域枠設置の可能性の検討】**
　プログラム修了者に対する教員採用試験の措置及び地域定着枠（仮称）設置についての検討
h　**【附属学校等を活用した教員研修プログラムの開発】**
　離島やへき地、少人数学級を有する学校やその教員を対象とした教員研修プログラムを開発

令和５年度へき地・小規模校教育研究センター 活動方針が決定しました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

令和５年５月17日（水）に開催した「令和５年度第１回へき地・小規模校教育研究センター会議」で、令和５年度の活動方針が決定しました。

今年度の活動方針は以下のとおりです。

令和５年度へき地・小規模校教育研究センター活動方針（案）

１　センターが目指すもの

○「教育の原点」とも言われるへき地教育を多くの学生に経験させて資質能力と教職意欲の向上を図り、教員志願者数の減少傾向を上昇基調に転じさせる。

○北海道はもとより全国における学校規模の縮小化に対応した即戦力となる教員の養成と現職教員研修の強化を図る。

○SDGs目標４「質の高い教育をみんなに」の実現に向けて、へき地教育を通じた国際社会への貢献を果たす。

２　活動方針等

（１）「へき地教育プログラム」を中心とした教員養成の高度化

①北海道教育大学各校のへき地教育論講義・へき地校体験実習を充実させ、北海道と全国のへき地・小規模校で実践的に活躍できる教員を育成する。

・へき地校体験実習参加学生の拡大と受け入れ校の拡大

・へき地教育講義(理論)とへき地校体験実習(実践)の往還的なへき地教育プログラム拡充

・北海道教育委員会と連携したへき地教育プログラムの充実化

・北海道教育委員会と連携したへき地地域に定着する教員の輩出

②へき地校の少人数指導体験を通じて、教職意欲と教育実践力の高い学生を育成する。

・へき地校の運動会・学芸会・学校祭等の参加等による少人数学級での子どもとの触れ合いなどの感動体験機会の拡充。１日へき地校体験の拡充

・個に応じた教育・地域連携教育・異年齢指導・遠隔双方向教育・チーム学校等の体験

・へき地校の子どもの学習支援活動機会の拡充

・へき地校の経験を契機にした教職意欲の高い学生の育成

（２）少人数指導等の先進研究を生かした現職教員研修の全国展開

①北海道内の教育委員会・学校教育界と連携して、北海道のへき地・小規模校教育研修を拡充し、中堅教員を育成する。

・北海道立教育研究所へき地教育教員研修事業（基礎編＋発展編）の共同開催と中堅教員の育成

・北海道教育委員会・教育局・市町村教育委員会・校長会・学校と連携した調査研究・研修活動の拡充

・北海道教育委員会と連携した派遣研修講座・テクニカルサポート事業の拡充

②北海道へき地・複式教育研究連盟及び各管内研究連盟と連携した北海道のへき地・小規模校教育研究及び実践を発展させる。

・全道へき地・複式教育研究大会の参加と情報交換

・各支庁管内へき地・複式教育研究大会の参加と情報交換
・市町村へき地教育研究大会の参加と情報交換

③全国の都府県教育委員会と連携したへき地・小規模校教育研究を進め、存在意義を明確にする。
・都府県教育委員会・市町村教育委員会からの研修講師派遣依頼等への協力
・全国の教育委員会等への資料提供
・公開用オンデマンド講座等の提供

④「全国へき地教育研究連盟」と連携し、全国におけるへき地教育研究を発展させる。
・全国へき地教育研究大会への参加
・全国へき地教育研究連盟と連携した調査研究活動の推進

（３）へき地・小規模校教育を他大学のカリキュラムに組み込むためのFD研修の全国展開

①「日本教育大学協会へき地・小規模校教育部門」や「全国大学へき地・小規模校教育研究会」などの全国の大学のネットワークを広げ全国的なへき地教育研究を発展させる。
・日本教育大学協会全国研究集会、へき地・小規模校教育分科会での研究交流及び情報発信
・他大学出前講義や研修事業要請への協力と教員派遣
・共同研究員制度によるセミナー等の研究活動の交流

②本学、長崎大学、鹿児島大学、琉球大学との「へき地・離島教育に関する連携協定」による事業の展開
・４大学連携フォーラムの開催（令和５年７月23日（日））
・教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業の実施

（４）SDGｓ目標４「質の高い教育をみんなに」の国際社会貢献の推進

①国際的なへき地・小規模校教育研究へのニーズが高まる中で、国際社会におけるへき地・小規模校教育研究センターの研究成果を発信する。
・英語版HUE RISE Resource Series No1・No2 “Multi-grade Teaching in JAPAN” の普及と発信
・英語版ホームページの拡充
・国際シンポジウムの開催

②へき地・小規模校教育研究センターの国際社会貢献活動を発展させる。
・海外からのへき地教育研修訪問団の受け入れ
・派遣要請への協力

（５）へき地・小規模校教育研究センターの研究・教育の発展と存在意義の明確化

①全国唯一のへき地・小規模校教育研究の中核的な研究センターとして、へき地・小規模校教育研究を発展させ、その成果を教育実践活動に生かす。
・紀要『へき地教育研究』の継続発行による研究成果の蓄積。本学教員及び全国の教員の投稿の拡充
・実践活動用『へき地・複式・小規模教育の手引』の普及と継続発行
・学長裁量経費等の特別プロジェクト・受託調査研究プロジェクト研究の推進
・文部科学省概算要求事業「学校規模縮小化に対応した教員養成と教員研修を推進する教育拠点整備事業」に基づく教育・研究活動の推進

②へき地・小規模校教育研究センターの研究内容・活動内容成果を北海道教育大学内外に広く普及し存在を知らしめる。
・「へき地・小規模校教育推進フォーラム」の開催と全世界への発信

・「へきけんニュース」の発行
・リーフレット等のセンターを紹介する刊行物の充実
・報道機関に対する積極的なプレスリリース
・ホームページの充実
・Facebookを活用した情報発信
・研修成果をまとめた書籍の刊行

3　充実した活動を展開するための運営体制の確立に向けて

①キャンパスにおけるへき研センター員の拡充とへき研センター員間の連携及び役割分担
②へき地教育アドバイザー間の連携と役割の明確化
③へき研センター事務局と各校との連携及び活動支援
④各キャンパス教育実習委員会・地域連携委員会・カリキュラム委員会等との連携体制強化
⑤各キャンパス長と連携したキャンパスにおける位置づけの向上

全国へき地教育研究連盟の全国定期総会が開催されました

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

▲開会の挨拶
全国へき地教育研究連盟
柿崎秀顕　会長

令和５年６月１日（木）に、東京のオリンピック青少年記念青少年育成センターで「全国へき地教育研究連盟」定期総会が開催されました。全国へき地教育研究連盟は全国３千校のへき地校が加盟するへき地教育の実践研究団体です。

柿崎秀顕会長の開会挨拶のあと、来賓挨拶として、全国小学校長会･全国中学校長会と北海道教育大学へき地･小規模校教育研究センターの玉井康之センター長が挨拶されました。基調提案は、北海道へき地･複式教育研究連盟の温泉敏委員長が提案しました。

▲来賓の挨拶
へき地・小規模校教育研究センター
玉井康之　センター長

学校現場のへき地教育研究団体である「全国へき地教育研究連盟」と、大学の研究機関である北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターが連携すれば、実践と理論をトータルに発展させることが可能となります。すでに全国へき地教育研究連盟とへき地･小規模校教育研究センターは包括連携協定を締結しており、へき地教育の担い手を育成していくためにも、今後両者の連携内容を発展させていくことが重要です。

へき地校では、教師と子どもや子どもどうしの信頼関係が強く、個別最適な教育活動が展開できる教育の原点と言われています。さらに小規模性を活かして、へき地教育を令和の日本型学校教育など新しい教育活動に位置づけて、普遍化していくことが重要であるという点も確認されました。

◀会場の様子

なお、今年度の主な事業計画は以下のとおりです。

「今からできる　ICTを活用した授業実践研修会パート2（初級～中級編）」

【開催目的】

〇小規模校にみる複式授業の趣旨を活用した授業技術の普及

〇共同研究の趣旨を活用した学校間ネットワークの再生

〇GIGAスクール構想の長所をいかした遠隔双方向の授業の普及

〇学校や地域にある技術格差の解消

【第1回研修会講座内容】《テーマ》使ってみよう

〇日時　令和5年6月2日(金)

【第2回研修会講座内容】《テーマ》共同編集の活用

〇日時　令和5年7月4日(火)

【第3回研修会講座内容】《テーマ》実践編

〇日時　令和5年8月22日(火)

第72回全国へき地教育研究大会兵庫大会

【開催趣旨】

へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした学校経営、学習指導及び生徒指導上の諸問題について研究協議するとともに、全国各地におけるへき地教育の研究成果を交流し、へき地教育の充実を図る。

【開催日時】令和5年10月12日(木)～10月13日(金)

【会 場】第1日　全体会・分散会　姫路市市民会館

第2日　分科会　兵庫県内8校・7会場

へきけんニュースの配信先を拡大・センターHPのへきけんニュースページを改良しました！

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

本センターの取り組みをより多くの方に知っていただくため、全道市町村、日本教育大学協会加盟大学にも「へきけんニュース」を配信することとなりました。

他にも「配信してほしい！」という声がありましたら、ぜひ本センターまでご連絡ください。

また、へきけんセンターHPの「へきけんニュース」掲載欄を、より見やすく改良しました！

へきけんニュース画像とその号に掲載されているタイトルを掲載し、わかりやすく表示しています。

バックナンバーも同様に改良しましたので、ぜひご覧ください！